

京阪神東雲

鳥取県立鳥取東高等学校同窓会
東雲会京阪神支部会報●第21号
事務局 岡田俊一(山脈12回)
神戸市垂水区神和台2-2-9

故郷散歩

地域活性化に頑張る若桜鉄道



鳥取県若桜町の道の駅「さくらんぼ」に隣接する若桜駅があります。

ここには、国鉄型蒸気機関車C12が若桜駅構内に圧縮空気を動力源に走行する状態で動態保存をされています。

また数少ない国鉄型ディーゼル機関車DD16もあわせ保存されています。

4月から11月までの第3土曜に体験運転を行っています。詳しくは若桜鉄道株式会社のHPで。給水塔や車体の方向転換設備なども見られて、汽車を見ると遠い昔へとワープしますね。

(文・スケッチ 岡田俊一
山脈12回)

好評のLOVE CENTRALで今年も会いましょう

総会・懇親会へのお誘い

今年の京阪神東雲会総会、懇親会は、昨年と同じく中之島LOVE CENTRALで行います。大阪府が推進した「中之島にぎわいの森プロジェクト」の集大成の施設で、大阪にゆかりのある日本の人気バンドDREAMS COME TRUEも協力しています。

また、好評のサンセットクルーズも予定しております。水面から大阪の街並みをお楽しみください。天下の台所と言われ、日本の富の半分が集中していた北浜～淀屋橋～肥後橋界隈は、「あさが来た」の舞台になりました。

● 平成30年度当番幹事 中山 素生 山脈35回



平成29年度総会 於:中之島LOVE CENTRAL 【平成29年11月18日(土)撮影】

返信はがきの 近況報告から (平成29年度)



柏葉

★元気に暮らしております。知人がいないので会には欠席します。盛会を祈ります。(18佐々尾昭) ★左足、膝疼痛の為治療中。(18山根昭一郎) ★米寿を迎えたが元気です。もう少し長生きしたいと思っています。(22紙野康美)

山脈

★高齢でその日をつつがなく暮らすのが精一杯です。皆様の御幸運を!(3山崎圭子) ★七夕の前日(7/6)同期会6名で梅田集合。今年は、男子は私一人でした。メンバーが欠けて行く寂しさを感じております。(4小路一完) ★黄昏の老後、間もなく訪れるであろう終着駅を間近にした寂しさの中で悶々と生きています。皆様のご健勝とご盛会を祈念します。(4中尾英昭) ★ほぼ高齢者の一人旅ツアーで、1月は谷瀬の吊橋と熊野古道、6月は西穂高と乗鞍、9月は礼文島と利尻島へ行ってきました。(5井上治) ★おかげさまで元気に夫婦旅行を楽しんでおります。11月下旬は熊本の通潤橋や人吉の紅葉を巡る旅に出かけます。(5松下泰治) ★平均寿命をクリアして1年、何時お迎えを受けてもおかしくない齢です。消化器系に爆弾を抱えており、生きていることに感謝しながら過ごしております。(5森田明弘) ★今年11月尼崎市歯科医師会による「8020」運動達成者の表彰式に出席を勧められている。「8020」とは80歳で20本以上の健康な自歯ホールドの事、最近該当者が増加傾向との事であるが家内も達成者である事から夫婦そろっては稀との事。能天気な性格が笑いの効能をもたらし日々適宜な運動と何より酒好き故、肴は内容問わず多品種を食している事が健康を維持し20数本の健康な歯を支えてくれているのだろう。しかし実際は頭の上がらない家内の努力があっての事と密かに感謝している次第。(6久永浩) ★10坪強の畑を借りて、農作業を楽しんでいます。この時期、種まき・苗の植付けなどで汗をかいています。(7丹松克男) ★リハビリの毎日です。涼しい秋の日が待ちどおしい…。盛会な東雲会をお祈りしております。(7元村昌公) ★糖尿、HbA1cは7.4、下げるため運動、特に筋トレ。来年のこの時季は7.0以下目標。

(8三浦久志) ★会報を読ませていただき有難うございます。たくさんの元気をいただきました。感謝!(8山崎萬喜子) ★病を三種類かかえておりますが、目下プールに通って体を鍛えております。

(9垣本信夫) ★後期高齢者を自覚しました。ジョギング、山歩きともほどほどにしています。(10一軸さゆり) ★肩や、腰や、ひざを痛めていて、現在も治療中ですが、おしゃべりだけは元気です。

(10川崎裕美枝) ★喜寿の祝を終へ健康第一で頑張ろうと思っています。皆様の御健勝をお祈り致します。(10滝和男) ★週一回、介護施設にお泊まり勤務しています。いつもご案内有難うございます。

(10中村恵子) ★学生時代に登山した屋久島の山を54年振りに妻と歩いて大自然に我が身を置く。種子島では宇宙ロケット発射を見学する。退職後は妻と外国・国内の秘境僻地の旅を続けています。旅は人生のビタミン剤です。(10西尾康弘) ★元気に過ごしています。(10西村律男) ★自治会・老人会役員として日々忙しく過ごしております。色々と勉強になる事も数多く人と人の繋がりの大切さ、自分の老後に重ね合わせ、元気で心豊かな人生を送りたいと常々考えています。(10西脇紀恵) ★最近、月の半分ちかくを鳥取で暮らしています。家や畠の管理もありますが、人生の最後に何らかの形で故郷に恩返しをしたいと思い、地域の方と協力していろいろ取りくんでいます。(10橋本巖) ★愛犬が昨年亡くなり、今年1月に夫が亡くなりました。もちろんの手続きにバタバタして、ホッとする間もなく町内会長になり、忙しい日々を送っています。(11澤田和子) ★現在も囲碁クラブ並びに教室を経営しております関係上、なかなか外へ出かける時間がとれません。近況報告としましては八月に囲碁雑誌に

「関西棋院支部紹介」の記事を載せていただきました。皆様のご多幸をお祈りいたします。(11福岡靖久) ★加齢と共に筋肉の衰えを実感しています。

理想の一日6000歩は無理としてもその半分位は頑張りたい!大切なのは「筋肉をつくり出す力」を取り戻すことだそうです。(11盛田和子) ★家庭内での老老介護の毎日です。ようやく安定してきました。(11萬知行) ★テニスと将棋を楽しんでいます。

(12堂坂明宏) ★画家のアトリエに週1回通って絵画を描いて18年になります。(13前田章子) ★S38卒、73才まで防災関係(治山林道協会)で勤めさせていただきました。(14大橋正行) ★鳥取発祥のグラウンドゴルフや体操をして健康づくりをしています。(14野崎文子) ★なかなか関西に出て

行けなくて失礼しています。大人の修学旅行は小豆島に行きました。一番大きなイベントです。倉恒先生も歳をとられました。時々家の方に行ってます。

(14 宮内俊夫) ★当日は所属会派の60周年記念詩吟大会出吟の為欠席させていただきます。 (15 上島耕作) ★お世話さまです。元気でいます。 (15 高木真知子) ★鳥取の息吹を感じられることが有難いです。 (15 日野郁子) ★古希を過ぎあとが少なくなってきたが“常に動く”をモットーに朝ウォーキングに通っています。週1日働いており社会とのつながりを大切にしております。 (15 山本澄江) ★一人暮らしとなりましたので小豆島を離れ、親族の近くに越してきました。 (15 中尾康子) ★腰の手術で長期入院していましたが、やっと帰宅しリハビリ中です

ので欠席します。

みなさんによろしく。 (16 小谷保広) ★今から120年前にJR 加茂駅から大仏鉄道が奈良まで走っていました。遺構巡りがとても人気で、昨年同様お手伝いで忙しくしています。皆さんも是非いらして下さい! (17 長田富枝) ★とうとう満70才を

迎えました。医療負担が2割になりました。が、複雑な心境です。会報楽しみに見ております。 (17 浜野純郎) ★会報のまねきのうどんの記事、なつかしく読みました。子供の頃、鳥取に出ればまねきのうどんが食べれるのが楽しみでした。なつかしいです。 (17 和田節子) ★石原裕次郎記念館閉館セレモニーに行ってきました。最高の3日間を満喫してきました。店も21年を過ぎ頑張っています。 (18 井垣光子) ★50年以上前に三浦校長が京都に講師に来られていた頃は、学生は大阪での会に出席しにくいので京都在住者だけでやっていた時代がありました。その頃が大変なつかしく思い出されます。今年10月長崎・福建交流事業出席、文華殿秋季特別展「田上菊舎展」、来春出陳予定－京都国立博物館

「池大雅展」、東京サントリー美術館「寛永の雅」展。 (19 田中智誠) ★山脈19回の参加者は、昨年も一昨年も私ひとり。皆の元気を確認したいので山脈19回の諸君顔を見せろ! (19 田中満男) ★京阪神東雲会の総会の案内が来ると、東高時代の青春を思い出します。年1度の会報を楽しく読ませていただいています。 (19 吉村律子) ★ようやく昨年子育てが終わり、古くなった家を少しずつ改修し、仕事・趣味を楽しむ生活に舵を切っております。 (20 秋田幸子) ★現在、滝川第二中・高校で国語と書道の非常勤講師をしております。この歳でいまだに現役の教師生活を送れる事に満足し、幸せを感じる毎日です。 (20 清水雅) ★故郷がだんだん遠くになっていきますが、18歳まで過ごし青春の想い出が詰まっている鳥取東高時代、やはり故郷が気になります。

(20 山根行憲)

★退職後は奈良演劇鑑賞会の幹事として、2ヶ月に一度の観劇を楽しんでいます。30周年祭が終わりホッとしています。 (21 井上由利子)

★70才まで働くつもりです。最近10kmが

走れない様になり、若干弱気です。大阪難波が働く場所なので、毎日環境に元気をもらっています。 (22 増田正) ★60才で定年退職し、今は別の会社で埋蔵文化財発掘調査に関する仕事をしています。 (22 山本義雄) ★高齢者の域に入り、健康に気をつけております。がんばりましょう。 (23 但井満則) ★

「光陰矢の如し」あと1年で第二の職場も終わりです。頑張ってます。 (23 津村明宏) ★放課後児童会指導員になって半年です。この歳になって、毎日小学生の子供達から「先生! 先生!!」と呼ばれています。 (23 高取節雄) ★幹事の皆様には、いつもながら御苦労いただき、心より敬意を表します。

(24 大西久樹) ★先日、中之島フェスティバルホールでのコンサートに行き、夕暮れの中之島界隈を



散策してきました。とても素敵なところです。「サンセットクルージング」参加したかったなあ…と、つくづく残念です。（24 窪田美保子）★東高前の銀杏の葉が茂ってきました。携帯を見て歩いている学生がいましたが、顔を見るとさわやかに御辞儀してくれました。（東高周辺で散策中）。（匿名）★母の介護でふんばっております。（25 組原克彦）★4月より鳥取の実家に単身赴任しています。鳥大発のベンチャー企業に転職し、チャレンジングな毎日です。（27 井上忠志）★東京に転居して1年半が経ち、初めての東京暮らしもボチボチ慣れて来た感じです。（27 西尾信也）★5月に東京より福岡へ転勤となりました。60才での異動ですが、体にムチ打って頑張ります。関西圏への異動はもう期待できません。今後は鳥取へ戻りたいと思います。

（27 大門忠志）★マラソンも山歩きもほどほどに。新しい生き方・趣味を模索中。（28 湯村武）★年末か年始頃鳥取に戻る予定です。関西からはなれても、京阪神東雲会総会には出席していこうと思っています。（29 田中雅子）★5年ほど前に幹事をやりました。その後仙台へ単身赴任となり、今も仙台です。帰阪できそうにないので欠席させていただきます。

（29 吉田千里）★“同窓生いきいき活動だより”にとりあげていただきありがとうございます。声だけで読む本の楽しさに夢中です。（30 佐藤洋子）★2013年（平成25年）に当番幹事の一員となってから、毎回出席させていただいている。世代を超えて、同じ「鳥取東高」で青春時代の3年間をすごした仲間と出会い、語りあえる喜びを感じます。

（30 田和道佳）★昨年はお世話になりました。7月より地元鳥取勤務です。（33 矢田克明）

（イラストは山脈12回山崎勝彦氏の作品です）



恒例鳥取○×クイズ 今年もやるよ!

- ①鳥取東高祭名物の「シンボル行進」は1997年停止。今年(2017)復活した。
- ②鳥取砂丘の「らくだや」のラクダは全部で3頭。
- ③砂の美術館の入場料は1000円である。
- ④いかりスーパーが智頭駅前にある。
- ⑤八頭町ではカカシに住民登録をしている。
- ⑥上野動物園のパンダ「シャンシャン」に鳥取県はしゃんしゃん傘を送った。

答えは5ページ

夢つれづれ

川崎 裕美枝 山脈10回

鳥取駅から久松山に向かってまっすぐ伸びた街道がある。それが鳥取市で一番にぎやかな通りと言われた若桜街道だ。

鳥取駅から西へ600メートルほど行ったところに、昔、大黒座といった、芝居小屋があった。小屋といつても花道もついて70人以上は入れる舟席の、れっきとした芝居小屋だった。私の親類は芝居、音楽、展覧会、催物などが大好きな人達が多かった。杉原のおじいちゃん夫婦は当時60才前後だったが芝居が大好きだった。子ども相手のおもちゃやお菓子を売っていたおばあちゃんは、首から大きなガマ口の財布をぶら下げていて、その財布はいつもふくらとふくらんでいた。私の母も芝居が好きだった。冬の雪が降る寒い日、傘の上に雪がつもっていて大黒座に着くまでに何度も傘の雪をトントンと地面に払いながら、大黒座に通っていた。私は、「勧進帳」の義経弁慶などの芝居をここで見た。母は機会があれば見るもの聞くもの触れるもの、なんでも見ておきなさい、感想批評はその後で、わからなくともそれはかまわないといっていた。9時前後に芝居の幕が降り、下足場で履物にはき替える時、見物客は、今日の芝居の感想をお互いに話し合ったりした。杉原のおばあちゃんと、目があった時、おばあちゃんは、雪を見上げて首をふりながら今日の芝居はとても良かった、役者も上手だった。来月の演目は、なんだろう、楽しみだわといって、夢みるような目になって帰っていった。冬に、恒例の忠臣蔵が上演されると芝居小屋は連日満員で大賑わいだった。



春になると呉服屋連合の新作発表会がある。母と叔母は(忠雄叔父さんの妻)着物の仕立てをしていて忠雄叔父さんも一緒に、若桜街道に並ぶ展示された着物をみてまわる。今年はどのような柄が流行するのか、花柄であればピンク系が良いのか、明るい空色か、薄い黄色か、鳥であれば小柄がいいのか、飛んでいるのがいいのか、みんなでワイワイ言いながら品定めをする。若桜街道の真ん中あたりから西へ商店街が伸びていて、川端町なので、川端銀座と呼ばれていた。川端銀座は若桜街道の商店街とはまた違った繁華街で日本映画を主に上映する「世界館」、外国映画専門の「帝国館」、高級料亭「弥次喜多」、キャバレー「百番」、洋書専門の本屋、万年筆専門店、レコード屋、雑貨店、たえずテンポの早い音楽が流れていた。新しい商品が早くはいってくるので若者にも人気があった。「やぶきん」という食堂があって、みんなで、うどんやお寿司を食べるのが楽しみだった。彰叔父さんは映画が大好きなので、「陽のあたる場所」のモンゴメリー・クリフト、「にがい米」のシルヴァーナ・マンガーノ、「黄色いリボン」のジョン・ウェインなどに連れていってもらった。



桜の季節になると、袋川の両側の土手に植えてある桜が花咲き、桜のトンネルが出来た。トンネルは、鹿野橋、智頭橋、若桜橋へとえんえんとつづいた。夜になるとチョウチンがともされるので、ぼうっと桜が照らされ、きれいだった。近郊の人たちも大勢出てきて、若桜街道も川端銀座も人の肩が触れ合うほどだった。私は、綿菓子と、棒あめを買ってもらって食べた。

私の家にも、玄関の近くを母が仕事場にしていたのでよくひとが来ていた。朝早く湖山池から取れたエビ、小鮎などを売りに来る行商のおばさん、「朝早く起きたから疲れた、ちょっとお茶一杯もらおう」 郵便局の保険の外交のおじさんも「お茶を

一杯」 近所のおばさん、「10軒向こうの太田さんの息子さんのお嫁さんがきまつたらしい」「百番」のキャバレーのおかみさんが、「今度入ってきた子はかわいい子だから見に来て」と言った。お茶の先生が、「今度郊外でお茶の会を開くので、来てください」とか、いろいろな人が来て、よく世間話をして帰っていった。私は、そのような大人たちの話を、お茶を入れたり、お手玉をしながら聞いていた。みんな、よくしゃべり、よく笑い、朗らかだった。



私は帰省するたびに、思い出の街の中を歩いてみる。大黒座のあったあたり、若桜街道の呉服屋が軒を連ねていた通り、大型書店「ロゴス」があったところなど。今の若桜街道は駅前のお土産店、飲食店、装飾品店、小物店などを残してシャッターを閉めている店が多くなっていた。今は、川端銀座通りそのものが消滅して、新しい家が建ち、ひっそりと静まり返っていた。かつての、あの賑わい、あの活気はもうみられない。映画を見たり、雑貨の小物をみたり、あのそぞろじいまでに流れていた音楽、人々の息づかいが触れ合うまでに賑やかだった、など誰が想像できよう。あの街は本当にあつただろうか、夢か幻ではなかったのだろうか。そんな思いが頭をかすめる。

日々をみていると東から風が吹いてきた。でも、私たち、あの街で本当に生きていたのネ、と風に向かって問いかけてみたくなるのだった。

○×クイズの答え

- ①○ 20年振りに復活 ②× 6頭(2017年時)
- ③× 600円 ④○ 豆腐の仕入れの為店も置いた。
- ⑤○ 2013年10月18日 NHK「かかしで町おこし」より。
- ⑥○ この時の平井鳥取県知事のダジャレ。「パンダはシャンシャン、ダンパ(ダンスパーティー)はしゃんしゃん(祭)」

私の備忘録から（その1） 「ふるさとの集い」

上口 敦弘 山脈14回



感激ノート

＜「日記」というと続きそうもない。「メモ」というと書き捨ててしまいそう。「随想」となるといささか気が重い。様々な人との出会い・ふれあい・助け合いの中で感激したこと、様々な文化に接して感動したことだけでも、気軽に書き留めておきたい。

そんな気持ちでノートを買い求めた。名前を付ける必要もないが、何となく「感激ノート」と自分で呼ぶことにした。後々読み返して、年代ごとの関心事を振り返ってみるのも面白いと思う＞

この一文は、社会人になった時に買ったノートの最初のページに記したものである。書き始めて40数年、手書きのノートもボロボロになった。この機会にと各項に少し手を加え、活字に置き換えて「あっかるいオッサンの感激ノート」（近代文芸社）として出版した。

この間、民間企業と女子大学にあって、大勢の方々とふれあい助け合うなかで、いっぱいの感動を頂戴した。いま読み返すと、その時々の新鮮な驚きや喜びが思い起こされ、元気が湧いてくるから嬉しい。

この会報「京阪神東雲」の「私の備忘録から」シリーズでは、その中で、強く印象に残っている記述のいくつかを拾い出し、現在の所見を付記してお届けしたい。

同じ誕生日

私の備忘録「感激ノート」に「同じ誕生日」という記述がある。

＜時代は遡るが、大学に入学して、東京は東横線の日吉に下宿した。一年経って後輩が入ってきた。誕生日を聞くと、私と一歳違いの10月15日生まれとのこと、不思議な縁だと思った。それから一年、次の後輩が入ってきた。聞くと私と同じ鳥取東高卒だと言う、これも奇遇だと思った。

さらに約40年後、尼崎の大学に勤務して、立て続けに3人、同じ誕生日の人には会った。

いずれも365分の1の確率である。

行きつけのスナックでそんな話をしていたら、隣席のお客さんが、同じ年で誕生日は10月16日だと言う。名刺を交換し、意気投合して杯をかさねた。翌朝「一日違いの兄さんへ」と題したメールを頂いた。

共通点がある人とは打ち解けるのが早い。考えてみると出身地や出身校、住まいや家族、業種や職種、スポーツや趣味、大概の人に何らかの共通項がある。いや、むしろ気の合いそうな人同士が共通点をさがして交流を深めているのかもしれない。＞

関西の交流会

そうした共通点のなかで、とりわけ打ち解けて交流できるのが同郷・同窓の関わりだと思う。関西にも、勤め先や住まいのある地域ごとに大阪・神戸・京都・奈良・伊丹・尼崎・姫路などの「鳥取県人会」がある。

また「関西いなば会」「倉吉・中部会」などの出身地域ごとの交流会や「京阪神東雲会」をはじめ県下17高校の同窓会があり、それぞれが持ち味を活かして活動し、絆を深めている。

例えば「大阪鳥取県人会」では「定期総会」のほか、「新年互礼会」「鳥取学出前講座」「ふるさと訪問日帰りバス旅行」「鳥取ゆかりの店食べ歩き」「郷土芸能教室」「ワクワク婚活食事会」「ゴルフ・囲碁同好会」等々楽しい催事がいっぱい、鳥取県関西本部と共同開催の「鳥取県ファンの集いin関西」は大阪に郷友が集う年間最大のイベントになっている。

ふるさとゆかりの集いは「元気と安らぎの源」だと思う。関西の同窓会や交流会が次世代に受け継がれ、継続・発展することを願っている。

ふるさと創生

中国山脈で隔てられている関西と鳥取県であるが、ふるさとゆかりの集いは「心の架け橋」としてその距離を近づけてくれる。

近年、「関西広域連合」に加わって鳥取県が関西入りを果たし、三府県（鳥取・兵庫・京都）にまたがる山陰海岸が「世界ジオパーク」に認定されるなど、関西との関わりが増してきた。

今年は「大山開山千三百年」の本番の年、5月の大山寺開創記念特別法要を皮切りに、8月の「山の日」記念全国大会など多くのイベントが大山周辺で開かれ、「蟹取（かにとり）県」や「星取（ほしとり）県」キャンペーンでも、魅力的な観光情報が発信されている。

山陰初の本格観光列車「天地（あめつち）」や若桜鉄道の「昭和」の運行もはじまり、高速道の整備で鳥取へのアクセスもさらに向上した。

関西により近くなったこの機に、鳥取の歴史や文化や観光資源などの魅力が再発見され、関西圏の「心のオアシス」として賑わう地域となれば最高である。

かみぐち・あつひろ

1944年、伯耆町生まれ。鳥取東高、慶應大（経）卒。三洋電機（株）採用部長・地区総務部長、園田学園女子大 事務局長・学長補佐などを務める。現在 鳥取市観光大使、大阪・神戸鳥取県人会副会長。神戸市在住。

同窓生いきいき活動だより 「人生というマラソン」

湯村 武 山脈28回

「もうイヤだ、マラソンはこれを最後にしよう」心の隅で何度つぶやいたことか。フルマラソンに何回も参加しても、特に35km過ぎは過酷だ。コース上には、立ち止まって脚のストレッチをしたり、歩いているランナーも増えてくる。ラップタイムも落ち、歩きたいという欲求と歩いてたまるかという意地とのせめぎ合いとなる。会社やチームを代表しているわけでもなく、家族からも期待されているわけでもない。何がうれしくてなぜ走るのか。

私は、東高時代を含めて陸上競技を専門にやったわけではない。最近のマラソンブームの中で50代後半からフルマラソンを再開した。フルマラソンを12回完走し、サブ4(ベストタイム3時間51分)はかろうじて達成した程度の60歳手前のおっさんランナーである。

「なぜ走るのか?」メタボ対策、ストレス解消、体力作り、脳の活性化など、ランニングは手軽に始められる。そのうちマラソン大会に挑戦したくなる。

ただ、フルマラソンは、何か月もかけて肉体改造のために練習時間も含めて自己管理しなければ完走は



できない。さらにペース配分も考えて実践していかなければならない。しかも雨風はもちろん暑さ・寒さ、膝痛などのトラブルへの対応が必要になる。まさに肉体も精神も頭脳も総動員して、上手にマネジメントできなければ目標を達成できない。マラソン大会は、自分自身の可能性にチャレンジする成果発表会とも言える。

と同時に、マラソン大会は行ったことのない地方への旅の動機付けにもなる。各地の大会に参加すると新しい発見がある。名所、歴史、食べ物、地元の人たちとのふれあい。これまでニューカレドニアマラソンでの海岸線の美しさや文化、東京マラソンでの銀座のど真ん中で受けた大歓声、大町アルプス

マラソンの紅葉の美しさ、青島太平洋マラソンでの地元高校生のボランティアのあたたかい応援など、その土地を走ることによって伝わってくる感動があった。ゴール後、地元のおいしいものを食べ、温泉につかり、生ビールを飲みながら、知らないランナーと話をしていると、もうやめようと思っていたマラソン大会も、次はどの大会を目指そうかと考えている自分がいるのに気づく。

人生というマラソンも年齢的に後半から終盤にさしかかったところか。昨年、入院したこともあり、大会に参加できる喜びを感じながら、体が動く限り、感動と可能性を発見するためチャレンジしていきたいと考えている。

(写真は平成26年10月19日大町アルプスマラソンでの筆者)



同じ意味でもこんなに違う!鳥取弁おもしろ比較

鳥取弁	とろく	わ	何しとるだ	いかさま	ばんなりました	きなんせ	えらい	いけん	おる
関西弁	なおす	じぶん	何しとん	ごつつう	おばんです	おいでやす	しんどい	あかん	いてる
標準語	しまう	あなた	何してるの	とても	こんばんは	おいでください	つかれた	だめ	いる

目だつ若い世代の活躍

今年も東京東雲会に参加しました。法曹会館で毎年7月の第1土曜日(今年は7/7)に開催されます。



鳥取のグルメ

丸福珈琲

久しぶりに若桜街道にある丸福珈琲店に行ってきました。

以前の丸福珈琲店は平成26年に閉店され、店名は「鶴太屋珈琲店」に変わっていますが、入口のドアの上「COFFEE SHOP MARUFUKU」と残っていました。懐かしい昭和のレトロ感漂い、入り口のドア、内装は茶色で統一され、外壁もレンガ造りそのままでした。

コーヒーを注文すると、当時そのままのスプーンの上に角砂糖がのり、ミルクポットでフレッシュが・・・昔ながらの独特の深煎り珈琲の味は今も継承されていました。

今ではスターバックスやチェーンコーヒー店が多くなっていますが、40年前にタイムスリップした様な至福のひとときを過ごしました。お店の方にお話を伺うと、夜の部では島根牛を提供したメニュー

にしているので是非広報して欲しいと話されていました。

(文・写真
西川尚子 池田洋子
山脈 22回)



東京支部では若い世代の同窓会活動への参加が目立ち、この1年間でホームページ立上げやFacebookでの発信、東京支部会報の創刊などがなされています。

本部からは、竹輪とスイカの差し入れがあり、校長先生からはボート部の活躍が報告されました。

懇親会では棚橋さん(ビオラ・山脈55回)と中嶋さん(チエロ・山脈56回)によるミニコンサートが持たされました。フィナーレは恒例の福引き大会で盛り上がりいました。(文 岡田俊一 山脈12回)

平成29年度会計報告

(会費で総会案内と広報紙作成が維持されています。納入のご協力をお願いします。)

平成29年度総会会計

(単位:円)

費目	収入	支出	残高	備考
前年度繰越金	50,000			
総会会費	655,144			79件
寄付金会計へ繰り出し		44,551		
総会支出		602,746		会場支払等
会議費		5,887		封入作業等
総会資料作成費		1,104		
連絡通信費		856		
合計	705,144	655,144	50,000	

平成29年度寄付金会計

費目	収入	支出	残高	備考
前年度繰越金	247,067			
平成29年度寄付金収入	170,980			137件
総会当日入金分	64,000			64件
総会関係会計より繰入	44,551			
振込用紙印字		602		
平成29年度総会案内送付		45,724		497通
出欠ハガキ代@62×515		31,930		
データ管理費(金井氏へ)		100,000		
振込料		324		
総会案内会報印刷代		38,642		
運賃送料		3,944		
会報編集通信費		1,000		
本部総会出席費用		10,000		
合計	526,598	232,166	294,432	

編集後記 今号は3名の同窓生が寄稿して下さいました。「鳥取のグルメ」は2名の方の現地レポートです。カット・イラストも同窓生の力作となっています。たくさんの協力を頂き出来あがりました。厚く御礼申し上げます。次号も会員の皆様のご寄稿をお待ちしています。

なお、当会のホームページは、インターネットの「京阪神東雲の窓」で検索出来ますのでご覧下さい。

後記になりましたが、6月の大阪府北部地震、及び平成30年7月豪雨で被災された方々に心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧・復興を祈念致します。

(おおにし・おかだ・やまべ)